



東京都立国分寺高等学校

生物部 カラスバト班

東京都国分寺市新町3-2-5

カラスバト≡こだま
カラスバトを絶滅から救え!!



構造色で美しい羽を持つ鳥カラスバト
大島公園では飼育個体を見ることができます

天敵から身を隠し暮らす
臆病な彼らが好むのは
暗い森

しかしその環境は減少し
準絶滅危惧種に...

“知っていましたか？”
この現状が続いては
人に知られないまま
どんどんと数を減らして
いきます

*Today Birds,
Tomorrow Man*

-今日鳥たちに起こっていること
は明日人間にふりかかること
である-

15 陸の量かさも
守ろう



現在地球では年間4万種もの生物が絶滅しており東京ドーム1.3個分の森林が消えています。

カラスバトは将来的に絶滅危惧種になる可能性のある準絶滅危惧種です。しかしカラスバトは深い森の中に身を潜めているためその生態はほとんどわかっていません。どのような環境を好むのか、何を好んで食べるのか、雌雄の判別方法はあるのか、鳴き声の意味は何か...

それが分かれば彼らを絶滅の危機から救えるかもしれません。

“Today Birds, Tomorrow Man” 鳥を、森を守って人間を守りましょう。あなたの興味が世界を変えます。

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

都立国分寺高校生物部

Action

天然記念物に指定されている準絶滅危惧種カラスバトは、その生態研究が進んでいない中で生息地の開発が進み将来が危惧されている。本校の生物部ではその生態を明らかにすると同時に、その存在を広く世の中に知らせていく必要性を感じ、10年間調査研究を進めてきた。人が近づくと鳴くのをやめたり、暗いところでは体色も黒く見えるので（クロバトと呼ぶ地方もある）、その存在も認知できない。研究者も手を出さず、研究が困難な鳥故、その生態を明らかにできなかったが、工夫を重ねた結果、照葉樹を中心とした暗い森に生息していることが分かってきた。大島公園や多摩動物園の飼育個体の直接観察などの研究成果を加え発表するとともに、その存在を広く知らしめるため、上記のようなポスターを作成したり、現在実施中の伊豆諸島・小笠原諸島に在住の高校生の意識調査などを通じて、保全には何が必要かも考え、行動していきたい。